

平成 25 年度 活動報告

NPO 法人マリンネットワーク
理事長 古屋温美

■NPO 法人マリンネットワーク 平成 25 年度 総会・講演会・交流会

日時：平成 25 年 5 月 25 日（土）13：00～16：00

会場：札幌きょうさいサロン 8 階「高砂」

【プログラム】

○講演会 14：00～16：00

基調講演：『食育のこれから…』

勝野美江氏（筑波大学人間総合科学研究科生涯発達科学専攻 博士課程 1 年）

「食育」というものがスタートした背景と目的、子供も大人も食を理解し食を大切にする心が求められ、そのための環境が必要なこと、筑波大学での研究の内容などお話しいただきました。

トークセッション：『水産物の消費と食育の役割を考える』

スピーカー

勝野美江（筑波大学人間総合科学研究科生涯発達科学専攻 博士課程 1 年）

山際睦子（北海道教育委員会 北海道食育推進検討委員会委員長）

古屋温美（NPO 法人マリンネットワーク理事長）

コーディネーター

遠藤仁彦（NPO 法人マリンネットワーク理事・国土交通省 港湾局技術企画課 技術監理室長）

NPO 法人マリンネットワークの活動報告

古屋温美（NPO 法人マリンネットワーク理事長）



○交流会：16：00～17：30 きょうさいサロン『竹』

会員、一般の方々あわせ、約 40 名の出席を頂きました。

■ 漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(1) 南かやべ前浜産養殖真コンブ 小分けオーナーの実施

「南かやべ前浜産養殖真コンブ」とそのオーナー制について
函館市の南かやべ地区は、養殖コンブ発祥の地です。

南かやべ地区の真コンブは「白口浜真コンブ」と呼ばれ、身が厚く切り口が白く見えることが名前の由来となっており、江戸時代に松前藩が朝廷や將軍家に上納していたことから「献上コンブ」とも呼ばれています。

生産者の収入の安定化と消費者の方へ市価より安くコンブを食べていただきたいとの思いで、南かやべ漁協大船地区青年部が始めた養殖コンブオーナー制は、オーナー様の養成綱1本分（5mロープ）のコンブ約40本を、1年かけて育成し製品化してお届けするものです。オーナー1口（代金28,350円（消費税および送料などその他の費用含む））で、春（5月中旬）は早煮コンブ2kg、秋（10月下旬）はダシコンブ6kgが発送されます。

しかし、1口8kgのコンブは1家庭で消費するには十分すぎる量であり、また1口の代金も高額であることから、一般家庭に幅広くオーナー制が浸透できていない現状にあります。

このオーナー1口を、マリンネットワークが小分けして販売

NPO法人マリンネットワークにおける地域の魅力的な水産物を多くの方に知って頂く活動の一環として、当NPO法人が養殖コンブオーナーとなり、一般家庭が購入しやすいように小分けして販売することとしました。これによって、もっと気軽にオーナー制のコンブを試していただき、南かやべ地区の養殖コンブの魅力をより幅広い方々に知って頂ければと考えています。

平成25年度は試験的に

- ・ 早煮コンブ13袋（150g/袋）
- ・ ダシコンブ30袋（200g/袋）

限定で、1袋各1,000円（消費税および送料込）で販売。早煮コンブは5月中旬、ダシコンブは10月下旬にお送りします。

平成25年度は、NPO法人マリンネットワークの会員様を中心に試験的に実施して、それ以降も継続していけるような取組にしていきたいと思っています。



(2) 苫小牧港漁港区刺し網漁業体験と意見交換会

日時 平成26年1月25日未明

場所 苫小牧港漁港区

主催 苫小牧漁業協同組合 協力 NPO法人マリンネットワーク

参加者は将来の土木業界を担う若者たちで北海道大学の工学部環境社会工学科3年生7名、大学院工学研究科修士1年の2名の学生9名ほか全員で12名

一般に、漁場から漁船に引き上げた網にかかったスケトウダラは、港に寄港するまでの間に船上で網はずしをしますが、漁獲量が多いと寄港してから港で網はずしの作業が続きます。スケトウダラ刺し網の漁期は12月から2月の真冬、しかも真夜中に作業が行われるので、吹きさらしの岸壁での長時間作業は本当につらいものがあります。作業する人がつらいだけでなく、あまりの寒さに魚も硬くなって、網から外れにくくなります。

今回の体験では、日頃まず見ることのない、漁業の作業環境、重労働を体験するとともに、漁業協同組合の方から漁業の現状をお聞きし、問題点などをディスカッションするものです。体験は夜中の2時～3時、ディスカッションは3時～4時と、ほぼ徹夜に近い状態で挑みました。

ディスカッションでは、澤口組合長からの地域漁業の現状についてのお話のあと、学生、漁協の職員、苫小牧市役所、報道関係者らが参加して熱心な意見交換をいたしました。学生からの質問・提案も様々で、作業環境等に配慮した施設整備、スケトウダラ需給・価格・流通、漁業後継者などの問題について質問があり、漁協からはスケトウダラほか魚価安や消費拡大に対する漁協の取り組み、苫小牧の漁業の操業時間に関する説明、若い漁業者の就業状況・収入に関する説明、燃油の削減など漁業の効率化のために漁協が取り組むことと現在必要とされる技術開発や課題について説明をいただきました。

翌朝は漁協女性部が地元の水産物を使い朝食を用意してくださいました。メニューは「ホッキフライカレー」「スケトウダラ三平汁」「シーフードサラダ」「たらこの醤油漬け」などです。朝食時も漁協さんとの意見交換は続けました。



■ 持続可能な漁村地域づくりに関する事業

フィッシュラン北海道 のプラットフォームを作成しました。

■ 漁村地域の担い手支援に係る事業

(1) 第3回マリンナレッジサークル(漁村勉強会)

日時 平成25年7月3日(水) 12:50~17:00
場所 室蘭漁業協同組合会議室(追直漁港) 参加者数 約40名
室蘭追直地域マリンビジョン協議会との共催で実施

北海道開発局が現在見直し中の北海道マリンビジョン21の考え方と、これからの北海道水産業の方向について、国土交通省北海道開発局農業水産部水産課長 岡貞行氏からお話をいただきました。更に、水産業を核とした地域振興やその効果についてNPO法人マリンネットワーク理事長の古屋温美から事例などを交えお話させていただくとともに、参加者との意見交換を実施しました。追直地域マリンビジョン協議会・検討会、漁協(役員、女性部、青年部など)、マリンネットワーク会員、行政関係など参加。

【プログラム】

1. 施設見学と昼食
2. マリンナレッジサークル(漁村勉強会) 15:00~17:00
 - ・挨拶 若佐誠氏(室蘭追直地域マリンビジョン協議会会長、登別室蘭青年会議所理事長)
 - ・話題提供 岡貞行氏(国土交通省北海道開発局農業水産部水産課 課長)
「北海道マリンビジョン21の考え方とこれからの北海道水産業について」(仮)
3. 事例紹介と意見交換 古屋温美(NPO法人マリンネットワーク理事長、室蘭工業大学准教授)「水産業を核とした地域振興やその効果について」

(2) 第4回マリンナレッジサークル(漁村勉強会)

日時 平成25年11月16日(土) 14:30~17:00
場所 苫小牧市役所9階会議室 参加者数 58名

【プログラム】

挨拶 古屋温美氏(NPO法人マリンネットワーク理事長)
歓迎挨拶: 岩倉博文氏(苫小牧市長)
話題提供
話題提供1: 浅川典敬氏(水産庁漁港漁場整備部計画課 課長補佐(総括班))
「漁業地域の防災力」
話題提供2: 川村勇氣氏(苫小牧市産業経済部農業水産課主査)
「苫小牧の水産について」

事例紹介と意見交換

水産を核とした地域活性化 ～苫小牧の可能性と課題～(事例紹介を交えながら)
コーディネーター: 遠藤仁彦氏(NPO法人マリンネットワーク理事)
遠藤理事のコーディネートにより、参加者全員で意見交換を行いました。
苫小牧市ではホッキカレーに代表されるように「ホッキガイ」が有名ですが、それ以外の水産資源も豊富であり、漁業生産もそれなりの規模があることを、苫小牧市外からの参加者だけでなく、市内の人もご存知ないかたが多かったようです。

やはり水産加工業がなくて、鮮魚で市外へ流通するという特徴が、水産業の知名度を低くしている要因として大きいのかかもしれません。今回の意見交換では、漁業関係者に加えて多様な方々が、それぞれ苫小牧の水産業に対し、考えをお話くださいました。

勉強会に参加してくださった岩倉市長が、苫小牧のあゆみの中で、漁業をテーマでこのような事を実施したのは、おそらく初めてだろうと語り、浜の若い人の元気を引き出したいとおっしゃったのが印象に残りました。これをきっかけに、水産関係者に加え、多様な方たちとの意見交換を図りながら、水産を核とした地域の将来像を作り、取り組みを進める第1歩になればと思います。

(3) 第5回マリンナレッジサークル（漁村勉強会）

日時：平成26年2月28日（金）17：00～19：30

場所：一般社団法人寒地港湾技術研究センター会議室

【プログラム】

1. 挨拶（遠藤理事）
2. 会員からの情報提供
 - （1）漁業者向け携帯気象サービス（MICOS on Mobile）のご紹介
西村修一様 永井豊様（一般財団法人日本気象協会北海道支社）
 - （2）ワークショップ結果を踏まえた地域PR策 など
鎌田昌弘様（株式会社アルファ水工コンサルタンツ）
3. 第4回マリンナレ in 苫小牧を契機とした活動のご紹介
報告：苫小牧漁業協同組合 長山専務
4. 意見交換
これまでの事例から NPO マリンネットワークの活動の可能性について考える
報告：古屋理事長、司会：遠藤理事
5. 閉会挨拶（古屋）

■情報収集及び調査研究

(1) 第8回 産総研北海道センター講演会「北海道水産物の鮮度保持とブランド化」

日時：平成26年3月12日（水）13：30～17：00

場所：札幌グランドホテル 東館3階 玉葉の間

主催：（独）産業技術総合研究所 北海道センター

共催：NPO 法人マリンネットワーク

【プログラム】

1. 開会挨拶（独）産業技術総合研究所北海道センター 所長 松岡克典
2. 基調講演 「産地（漁港）における衛生管理と情報発信」
長野章氏 公立はこだて未来大学名誉教授、一般社団法人全日本漁港建設協会会長
3. 講演（事例紹介）「道産魚の価値追求とブランド化」
佐藤正人氏 丸水札幌中央水産株式会社 取締役常務執行役員
4. フォーラムディスカッション＜北海道の鮮魚を世界へ＞

【モデレータ】 NPO 法人マリネットワーク 理事長 古屋温美（室蘭工業大学地域共同研究開発センター 准教授）

【パネリスト】

松前町さくら漁業協同組合 冷蔵部 部長 伊川 廣幸
独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部 海外販路開拓支援シニアアドバイザー 今井隆士
株式会社キョクイチグループ 株式会社伊藤商事 常務執行役員 山根裕之
公益財団法人北海道科学技術総合振興センター クラスター事業部 伊東博美
秋田診断士事務所 中小企業診断士 秋田舞美
北洋銀行 執行役員 地域産業支援部審議役 尾谷 賢
＜技術アドバイザー＞
北海道立工業技術センター 研究開発部 食産業技術支援グループ
主任研究員 吉岡武也
産業技術総合研究所 エネルギー技術研究部門 熱・流体システムグループ
主任研究員 稲田孝明



(2) 業務名：地域循環型再生エネルギー事業化推進事業委託業務

内容：廃フィルムラップの循環利用による CO2 削減効果の技術的検証

発注者：有限会社コーンフィード・サービス

契約金額：105,000 円（税込）

■ その他

書評・『漁業と震災』濱田武士（みすず書房）漁業と震災生活文化含めた再生提言（評 古屋温美 マリネットワーク理事長） | 北海道新聞 本の森 2013 年 5 月 12 日